

の「通信教授法」が成立つてゐなければ濟まぬ筈である。この通信教授法も斯界全般を概観した所では正しく年々に進歩しつゝある様子だが、しかも今日には未だ充分の發達を示して居らぬやうな點も多々あらうかと思ふ。殊に其れが個々の通信教授機關に就いて見ると區々たるの趣きさへあつて、殆ど統一を缺いてゐるなどは、寧ろ猶ほ幼稚の域に在るものかと疑はしむる位である。従つて此の事もまた優に講義録選擇上の一條件たり得べき問題であると同時に、就いて學ばんとする講義録の種類少なくて選擇の餘地なき場合だとか、又は既に就學した後だとか云ふなら、研究法の本領に臨んで、それぞれの通信教授法に依頼するの程度を異にして掛かる必要があらうといふ點——然り、またはれ一睨目たるを失はず——を忘れてはならない。

△通信教授の主義傾向に注意して研究法を決定すること▽一體、毎度申す事だが、通信教授は商業上の通信販賣に酷似した所があるので、しかも進

歩の度合に於て後者の方が一日の長を有してゐる所から、その原理やら秘術やらは近頃大分に前者の遣り方に應用されつゝある體爲だけれど、これには一利一害が伴つてゐる。講義録の方も先づ廣告手段に訴へ、通信機關を利用し、また一種の販賣を仕事とするものではあるが、通信販賣の場合には其の販賣が最後の目的で、之を以て仕事の全體が終りを告ぐるに反し、通信教授にあつては「販賣」も未だ手段の中で、その上に最後の目的たる「通信教授」の本領が残つてゐる——さうして此の本領こそ、初めて純然たる通信教授法の適用さるべき部分に外ならぬ譯だから、かの進歩したる通信の技術にして應用し得べくんば、やはり其の部分の主眼として然るべき理窟なるにも拘らず、寧ろ之を等閑視して、最大の力と注意とをば「廣告」「販賣」などいふ手段の方へ振向けてゐるやうな經營法が反つて斯界を風靡しつゝあるかの如くに見えるのは、そも——本末を轉倒した沙汰でもあり、斯業が教育は愚か、

出版事業に傾くだけでも済まず、更に一躍して普通の書店、否、普通の販賣業の繩張りまでも犯すに至つた事實の證でもあり、何しろ妙な風潮が馴致されたものと謂つべきである。但し中には此の大勢に従はず、比較的眞面目な態度を保持してゐる向もあるやうだが、その多くは通信教授法の本領までも時代後れの舊式に傾いてゐるから、二つ共好い事は容易に望まれぬものらしい。兎に角、講義録研究法を採用せんとする人及び採用しつゝある人が、よく右の如き傾向に心を留めて、個々の通信教授機關に就き其の主義とする所が那邊に在るかを識別した上、從容として之に對應するの策を定めるのが先づ伶俐と云ふものであらう。

△之を度外視しては通信教授もまた殆ど無意味となるべし▽ 蓋し普通の學校が教育を行ふ上に於て最も重きを置くのは、矢張り教授法だとしても、その力めて廣告手段や生徒の引寄せ策などを講ずることは、寧ろ陋中の陋と

してゐる風があるに引較べても、恐らく通信學校にあつては其の通信教授法如何こそ眞個の首腦たり、眞個の價値を成すの所たりと謂ひ得べきである。否、通信學校の制度全體は其の精神なり、而して此の通信教授法は更に精神中の精神であると共に、直接その生徒に對する働きとなつて出現するもの以外ならぬが故に、これぞ即ち極大の眼目なりと稱してよからう。何に致せ、之を度外視しては『被通信教授法』もまた結局無力、乃至は殆ど無意味のもので成り了らざるを得ぬであらうと思ふのである。

第四節 下れば書籍涉獵法、上れば學校研

究法

△普通の書籍に近似し來るに従ひ研究法は面倒となる▽ かの「本來の意義に於ける講義録」などは、殊に今日なほ未だ通信教授法を輸入すること甚

だ多からざる側の好適例で、勿論、まだ依然として高等専門の學術を目的とするものが大部分を占め、且つ必ずしも校外に頒布する方を主として居らぬとは云へ、餘りに「學校の講義を其儘記録したもの」であるよりも寧ろ其の真相は「教師の備忘録として役立つ講義の原稿丸出し」といふに近いので、之を獨學用書として見れば普通の書籍と伯仲の間にあり、なほ甚しきは學校の生徒が使用する教科書、参考書の類（その獨學に不當なることは嘗て述べた筈）と匹敵する位なものである。たゞ其れが嚴格に或る特定の學校又は其の一學科の講義録たる場合に限り、斷じて講義録の意義を失ふものではないからうが、もし之に反して其の背後に特定の學校又は學科を負はぬことになれば、もはや普通の書籍（殊に古いものでは百科全書の類、最近に流行しつつあるものでは何々の叢書と云ふやうな、往々にして學術的組織を有し、殆ど講義録の墨を摩するばかりに編纂されてゐる書類の如き）と甲乙がない程

のものに成下がる。それでも猶ほ之に依つてする研究法は、かの亂雜に流れ無規律に陥り易き「書籍涉獵法」よりは遙に増しであるが、兎に角、既に一部分にもせよ、普通の書籍によつて其の繩張りを犯されて來たものとすれば特別に講義録の例を以て見るべき點は少くなかつた方であらう。講義録が普通の書籍と似て非なる所以の點は、再び此所に繰返すの要はない。殊に右の場合、講義録の編纂法に「教育の觀念」が乏しく、従つて教授の仕方が用意周到ならぬために獨學用に適せざるものとすれば、それだけ研究法が餘分に入用となつて來るので、第一周到の用意は反つて研究者自身の方にヨリ多く必要となる道理と謂はなければならぬ。

△講義録紙上以外に於て行はるべき補助的研究法▽ なほ進んで之を言へば、通信教授法（但し其の本領）乃至「筆の教育」全體は、たゞに一の講義録をして其の代表機關たらしむるのみを以て、充分に爲し遂げられるものと

は看做し難いのである。普通の學校に於て、如何に教師の口述する學術講義が親切丁寧を極めたからとて、まだ／＼容易に學校の任務たる教育といふ仕事全體が終つたのではないと同様に、通信教授も其の主たる通信材料即ち講義録紙上に於てする分だけでは、決して仕事全體が濟まない。のみならず、他の一方、通信制度、通信機關の利用法に就いて見ても、たゞ講義録の發送といふ頗る簡單なる手段より以外には、絶えて之を教育上に利用するの途なしと仕たものではない。旁々、近來は講義録紙上に於てするものを主たる部分とするの外、種々其の補助手段と云つたやうな小教授法もしくは小研究法をば多少共に加味するの風が頓に流行を來したかの如くに看取される。例へば質疑法であるとか、練習法であるとか、模擬試験の法だとか、會話法だとか、いづれも部分的研究法として役立つものであるが、或ひは講義録の一部分を割いて其の目的に供し、或ひは講義録から離れた他の通信手段に依

りなごして、殊に生徒の「自修」を盛んならしむるの趣旨に基き、如上の小研究法を奨励することが逐次一般の傾向となりつゝあるは、また争ふべからざる事實のやうだ。獨學者に對して、ヨリ以上の自修を要求するといふ點、最も妙であるが、これも畢竟また「被通信教授法」が他の獨學法とは聊か選を異にし、寧ろ普通の「被教授法」に接近せる意味を表示してゐるものに外ならない。

△要は普通の學校に於てする研究法との接近を期するにあり▽ 右は、唯だ事實の一斑を擧げたに止まるが、とにかく通信教授は、まづ／＼普通の「教授」と接近せんとしてゐるので、之に連れ被通信教授法たる講義録研究法が同比例を以て普通の學校に於てする研究法に接近することになるのは、實に明々白々の事理に過ぎない。されば講義録研究法の要は、唯だ通信學校の制度設備に順應して、普通の學校生徒が實行してゐる種々の方法をば、故障

なき限り其儘に模倣すれば足ると謂つてもよい位なのである。——以上、僅に講義録研究法の大綱を説き得たに過ぎないが、豫定の紙数を越ゆること既に甚しい始末であるから、この分は一先づ此所に打切つて置く所以である。

(附言) 本書は主として獨學者殊に講義録研究者のために、細大さなく學問の仕方を論述し、殆ど遺漏なからしめんことを期してゐたのだが、併し限りある紙数を以てして、此の如きは、もご非望と云ふものに外ならなかつたので、以上十有餘章を費して、たゞ學問の仕方の大方針のみを説く以外、餘り多くを言ひ得なかつたのは、著者が最も残念に思ふ所である。が、世の獨學者等が動もすれば等閑に附し去らんとするものも、やはり此の大方針を最とするの點に想ひ到るの時、吾人は聊か以て慰むるに足る。若し夫れ更に精密なる學問解剖、學問の仕方の解剖、其他本書の赴くべくして赴くを得ざりし所は、他日之が姉妹篇を著すの機を得ば、悉く追補せんことを、此際約束して置きたい。一言附記して、お断りに及ぶ。

獨學 勉強の仕方終

大正五年五月二十日印刷
大正五年五月廿三日發行

《正價金八拾五錢》

不許複製

著者 奥村卯兵衛

發行者 竹内浩

印刷者 野口常太郎

東京市牛込區早稻田鶴卷町四三六
東京市麴町區有樂町二丁目一番地

發行所 東京市牛込區早稻田大學前
振替 東京二二三七三六
敬文堂書店

義士傳中の一奇大書 萬人必讀の良教訓書なり

大隈伯爵序 井上劍花坊著

最新刊 赤裸々の大石良雄

菊判美装箱入四百餘頁 定價 金壹圓二十錢 特價 金壹圓 郵送料十二錢

義士傳の多くは内蔵助の皮想のみを現はすに過ぎず、其の眞想は却つて彼れの隠れたる行爲清濁の天地に出没したる活動に存す、本書は大石内蔵助を神様扱にせず飽くまでも通常の人間として自叙傳風に表せし著書なり

寺内伯爵大隈伯爵森鷗外序司馬僧正著

前篇續 拙者は大石内蔵助

各篇 定價金壹圓 郵送料各金拾二錢

學習院教授 金澤久先生校閱 京都府立第三中學校教諭橋永生先生譯

英國の青年

四六判美裝紙 數四百餘頁 定價金九十錢 送料金八錢

好評再版

本書は英國學生の龜鑑として知られたるトムブラオンが漫遊中の思想及日常生活と模範學校ラクビー在校記にして其が眞摯健全なる思想を寫し快活勇壯なる學校生活を自ら忌憚なく描けるものにして教育者の典型としてのアーノルド博士の剛毅金鐵にして温情慈母の如き薰化と天真爛漫たる英國青年の品性と相合して後年天下にラクビーの名をして高からしめたる變化と曲折との跡を悉く收めたものにして英文壇名著の一として盛に英人士間に稱揚せられたる者也今や吾譯語界に其名ある橋先生の譯せらる譯文平易暢達にして些の滯滞なし東洋の英國を以て自任せる吾青年及學生は勿論學者教育者に取りてはアーノルド博士の事蹟と感化とを知るに於て最好の資料にして多大の興味と多大の實益とを得らるべし

吉田東伍博士 矢津昌永先生序 横井鶴城先生著

富士と足柄

四六判二百餘頁
寫真版十數葉
定價四十錢

唯一の富士登山案内

富士足柄を歴史的に文學的に又科學的に各方面より研究し合せて各方面よりの登山案内及富士足柄遊記を以て

す登山者は勿論吾輩山富士とほこらんとする者の一讀を要す

古川 楓山 著

げんござらし

定價金三十五錢
送料金四錢

小説に非ず隨筆にもあらず只肩の張らぬ稀代の一小冊子のみとかく左右

の批評は粹な讀者の御判断に委す

14-03



279
29

終

